

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立藤枝特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	339人

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	中学部知的学級全学年、全学部肢体不自由学級 80人
使用頻度	ほぼ毎日
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導の場面では、提示したいイラストや動画を、電子黒板に映し、モニターとして活用している。 ・ポスター作成する活動では、Canvaやアプリ等で画像編集を行った。10人程で画面を見ながら、どこにイラストを置いたり、文字を入れたりしたらより良いものになるか、生徒同士で意見を出し合ったり、直接電子黒板に書き込みをしたりして活用した。 ・共有のワークシートとして電子黒板に直接書き込み、意見の共有ができるよう活用した。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな画面上に提示することで、生徒は注視しやすく、学習意欲の向上が見られた。 ・ポスター作成では、個人で作成したものを全員で共有できるため、生徒同士の意見の発信、受容が増えた。画面に直接書き込めるので、言語で伝えるより詳しく、意見を反映させることもできていた。 ・ワークシートとして電子黒板を活用した際、タッチペンの色を変え、より見やすくなるように生徒が自発的に操作する等、他者に分かりやすく伝える方法を考えることができた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・機器を活用することで、自分の考えを表現したり、友達と共有して新しい考えに気づいたりする生徒が増えてきた。今後は、ICT機器操作についての具体的技術を身に付けていけるよう指導していく。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使った新たな機能ができた際に、以前寄贈していただいた電子黒板のアップデートが簡単にできるとより効果的な活用につながると考える。

2. 活用の様子



【中学部2年 知的】
個人の作成状況を、画面に映すことで全員に共有。この後、友達から意見をもらったり、直接画面に書き込んだりして、ポスターを完成させた。



【中学部3年 知的】
ワークシートでの書き込みを、電子黒板に直接することで、意見の共有をしやすくした。